

【総会開催報告】

令和5年度通常総会が6月28日松江市殿町サンラポーむらくもで開催されました。総会には、議決権を有する正会員65社中、書面で意思表示をした会員を含み53社が出席したほか、国・県市の行政及び賛助会員等が20名出席でした。対面の通常形式での総会開催は令和元年度以来4年ぶりとなります。



総会は、宮本一成業務執行理事の進行のもと、まず井上浩代表理事会長の挨拶で開会しました。井上会長は、挨拶のなかで、DXの推進のために、IT企業は新たな役割を果たすことが求められていると指摘し、協会としてこのための研修事業に取り組むとしました。

続いて、国から、中国総通局情報通信課長益田浩二氏と中国経産局製造・情報課長平山智康氏、さらに県議会農林水産商工委員長吉田雅紀氏から祝辞をいただきました。

議長には、会場からの提案により、井上浩代表理事会長が選出され、議長席に着きました。井上議長は、まず、議決に必要な議決権者数、有効な出席者数の確認の後、先の理事会申し合わせに基づき、議事録署名人に北村功氏、名原厚氏両氏を指名、総会の承認を得ました。



令和4年事業年度に係る事業報告及び決算案について審議しました。事業報告・決算案は次のリンクにあります。いずれの議案も、6月7日開催の第1回理事会で総会に提案することが決まったものです。

損益計算に当たる資産増減計算において、物価の上昇やコロナ対策緩和に伴う交流会再開等のため当期経常収支がわずかではあるがマイナスとなり、今後の協会運営に細心の注意を払う必要があることが報告されました。採決の結果、出席者全員の賛成で、令和4年度事業報告及び決算が承認されました。



第2号議案は、役員改選議案でした。役員任期は、定款に基づき、選任後2年後に開催される総会終了の時までとなっており、今総会終了時が任期末となるため、役員全員を重任とする選任案です。役員一人ひとりの審議・議決の方法により審議を行い、全員が、出席会員全員の賛成で重任されることになりました。

続いて、第3号議案、定款の改正の審議に入りました。この改正は、定款に記載されている「会長・副会長」の用語を、一部を除き、法令上の「代表理事」という用語に変えるもので、会長に事故等の支障が生じた場合の事務の簡便化を

図る目的の改正です。採決の結果、出席者全員の賛成で議案が可決されました。

次に、報告案件として、令和5年度事業計画・予算が報告されました。これらは、令和5年3月8日開催された令和4年度第4回理事会で決定されたものです。特に、人材研修において地域DX推進のための人材育成研修を始めること、さらに予算決定後、社会保険適用事業所となったため、これに伴う経費増嵩に関し予算の補正を検討している旨報告がありました。

また、令和4年度人材研修功労表彰が行われ、(株)テクノプロジェクト、ティエスケー情報システム(株)の二社が表彰対象社となったこと、出席のティエスケー情報システム(株)舟木透社長に井上会長から感謝状が手渡されました。



以上で、総会日程を終えました。今総会で選任された理事・監事は、別室で、臨時理事会を開催し、代表理事会長・代表理事副会長2名、業務執行理事の三役を互選しました。いずれの役職も出席理事全員の賛成で、代表理事会長には井上浩理事を、代表理事副会長には、北村功理事及び福光靖理事を、業務執行理事には、宮本一成理事を重任としました。

一方総会会場では、(株)フォーバル執行役員小倉宏之氏により「GDX アドバイザー事業共創のご提案と地方創生の実現」と題した講演を行って頂きました。フォーバル社は、すでに全国の地方公共団体や中小企業のDX推進を行っています。「きずなパーク」と称する中小企業経営のための情報分析プラットフォームを活用した、GX、DXアドバイザーの育成に努めており、その有用性の説明がありました。なお、フォーバル社は、協会が行うDX人材育成研修の提携先であり、講演会が、研修事業の皮切りとなりました。



講演会終了後、交流会を67名の参加で開催しました。総会に伴う交流会としては4年ぶりとなります。この4月に県商工労働部長に就任された新田誠部長、また、新たに松江市副市長に就任された山根幸二副市長に開宴に先立ち、ご挨拶を頂きました。宴は、馬庭正人(公財)しまね産業振興財団代表理事理事長の発声により始まりました。また宴の途中には、下出



政樹中国経産局地域経済部長に公務後駆けつけて頂き挨拶を頂きました。2時間にわたる宴は、北村功副会長のリードで、井上会長・福光副会長、それに参加者の杉原健司氏が登壇。「1、2、3、ダーっ」と力強く拳を突き上げ、久方ぶりの交流会を終えました。

